

## ひさびさの彗星

彗星というと、宇宙の放浪者ともいわれるくらいで、とてもきまぐれに現れます。明るい彗星となればなおさらで、たて続けに現れたと思ったら、何年間か、パッと出現しなくなるといった具合で、気長に待つしかありません。

また、彗星は太陽に近いところで明るくなる関係から、観望は夕方とか朝方になることが多く、サラリーマンには厳しい条件となります。

さて、今回明るくなったマックノート彗星(C/2009R1)は、2009年1月のルーリン彗星以来、1年半ぶりの肉眼彗星です。

彗星の写真撮影については、事前の準備がほとんど無いのと、朝夕の短時間勝負となることもあって、ノウハウが蓄積されることも無く、いつも記念写真程度にとどまっています。そんなこんなで、あまりの手抜きのために、銀塩写真の頃は惨敗することも多かったのですが、デジタルになって、彗星の位置の確認から構図あわせまで、試写の繰り返しでなんとかできるようになりました。

ということで、今回の撮影結果が右の写真です。我が家の回りは、東側に街があるので、光害を避けるために街明かりの無い海岸まで出るか、山手へ行って高度を上げることで透明度を稼ぐか悩んだのですが、結局、距離的にも近い山手へ行くことにしました。それでも、梅雨直前の水蒸気の多い空でしたので、2分露出(ISO800/F4)でも、濃度の半分くらいカブっているという状態でした。

本当は、イオンの尾が、うねうねしている彗星の姿を撮りたいと、彗星がくるたびに思うのですが、どのようなところが勘どころなのか、まだわかりません。今回の彗星はダメでしたが、今度、新しい彗星がきたときには綿密に計画して挑戦してみたいと考えています。



## 見てみたい星のこと 双眼鏡で金星を見る

西空の金星が高く明るくなってきました。夏なので、夜の9時半頃まで西空に残っていて、「宵の明星」という言葉がなんだか不釣合いです。

さて、この金星ですが、半月から三日月の形状の頃は、視直径が30"から1'にもなるので、大きさからいうと低倍率の双眼鏡でも形が見えるはずですが、しかしながら、金星の輝きが強すぎてハレーションでギラギラとするのでほとんど形はわかりません。

そこでお勧めなのが、背景の空がまだ明るくて金星が見えるかどうかという薄暮のうちに、

観察することです。

青空が残って背景が十分に明るいと、その中に白色に輝く欠けた金星の姿がよく見えるでしょう。

同じ事情が、ISSの観察の場合にも言えて、さしわたし120mのISSは高度が高くなる時には1'以上の大きさになるのですが、これまた明るすぎると移動速度が早いので、なかなか形をはっきりと確認することができません。しかし、ISSでは金星のような薄暮作戦は使いにくいし、まさか明視野照明と言う訳にもいきまいが。。

## メカが大好き 関数電卓のこと

先月のCPUに続いて、計算機の話です。

お手軽な天文計算には関数電卓が不可欠で、いままでいろんな電卓を使ってきました。最近まで、10ドルで買ったTiの小さな関数電卓を重宝していたのですが、液晶がダメになってしまったので、新しいのを買うことにしました。だいたい電卓がだめになるのは液晶かキーボードが不良になったときです。で、ホームセンターの在庫一掃セールで380円の関数電卓をみつけて買ってはみたものの、これがまた使いづらくてすぐに使うのをやめてしまいました。

そして先日、思い切って、HPのハイエンド電卓を購入したのですが、こちらのほうは、いわゆる逆ポーランド法と普通の入力方法との切り替えができるものの、なんとなく日本製の使い慣れた電卓とはどうも使い勝手が違います。慣れるまでにはしばらく時間がかかりそうです。

ということで、右の写真は、手元にある古い電卓をかきあつめてきて並べたものです。さすがに

最初に買った指数表示も無い関数電卓はどこかへ行ってしまいましたが、ここに並べただけでも30年の歴史があります。

ちょうど、自分が中学生の頃にカシオミニが発売され、さらに高機能の関数電卓が手軽に買えるようになったのは高校生の頃でした。実は、高校生の始めのころは計算尺が現役だったのよ(^\_^)v



## Books&CDs 星のふるさと／鈴木寿々子

先日、四日市市役所へ立ち寄ったら、パンフレットを置いている棚の中に、なつかしい名前の小冊子を見つけました。

随分と昔、天文ガイド誌の中で6cmという小口径で素晴らしい火星のスケッチをされている方がいることを知りました。その後、その方が、地元の三重県の方であることも知りましたが、とても素晴らしい随想を書かれる方であることを知ったのは随分と後になってからのことです。その後、何とはなく心に留めていたものの、何せ古い本ですので手にとることもありませんでした。ところが、思わぬところで、その随想にめぐり合い、これをきっかけにして原著を探し回ったところ、ようやく四日市図書館からオリジナルの「星のふるさと」を借りることができました。

この作品が著された1970年当時の四日市といえば、大気汚染や水質の汚濁など、公害がとて

も深刻となっていた時期です。そのような、とても厳しい条件の中で星空を見上げつづけた鈴木さんの文章を読むと、つくづく、星というのは、いろいろな接し方、楽しみ方があるのだなあと思います。

機会があれば、読んでみてください。



## 編集雑記

今月の天文トップニュースは何とんでも、「はやぶさ」ですが、ネタにするのが間にあわなくて、その代わりに一面はうめくさ記事のようになってしまいました。

はやぶさの帰還にあわせて発売されたDVD「HAYABUSA - BACK TO THE EARTH」はなかなかの秀作でとても素敵でした。

本当はデジタルプラネタリウム用の全天周映像なんだそうですが、近くには上映館がありません。こどもの城でやらないかなあ・・・

Kz\_Wada／和田一人